

「もんじゅ」は廃炉へ

原発に固執するホントの理由？

「もんじゅも原発もいらない」関西集会が10月1日、エルシアターで、約600人が参加して開催されました。

◆◆◆「ご都合主義」の関電

関電高浜原発3・4号機の運転差止仮処分を勝ち取った福井原発訴訟弁護団長の井戸謙一弁護士は、「裁判の中で、関電の活断層に対する主張は、自己に都合の良い想定のみで絞っていた。原子力委員会の試算値も関電とは異なるが、それでも矛盾に満ちていた。委員会には地震動の専門家がいなかったことや、安全よりも再稼働を優先していることが感じられた」と裁判の体験を話されました。

◆◆◆もともと無理だった
核燃料サイクル

続いて、元京大講師で熊取6人衆の1人である小林圭二氏は、「高速増殖炉「もんじゅ」は、建設以来1.1兆円もの税金をつぎ込んでおり（1日当たりの維持費は約5500万円！）、最近、「廃炉を検討」との報道があったが、政府は、「“核燃料サイクル”は推進する」と言っている。しかし、核燃料サイクルはすでに破綻していて、政府の言う『高速増殖炉から高速炉（減容）へ』という言葉に惑わされてはいけない」と、核燃料サイクルのインチキぶりを暴露しました。

両氏のお話からは、核燃料サイクルとは核兵器に使用するプルトニウム製造の問題であり、現政権が核兵器の製造・保有に固執している証だと思いました。

◆◆◆原発も戦争もいらない！

第2部は服部氏と作家の雨宮処凛（あまみや・か

りん）さんの対談でした。

雨宮さんは、イラク戦争で緩慢なる核兵器と言える“劣化ウラン弾”の犠牲となった人びとをイラク現地で自らの眼で見たことで、“核”に対する拒否感を深めたとのこと。しかし、原発に対しては「福島への衝撃まで、“反対”と言ってこなかったことは、原発賛成に加担したのだと実感した」と話されました。「14歳からの原発問題」などを執筆していて、地震後に福島原発で働く若者が、被ばく労働や多重ピンハネによるワーキングプアに陥っている状況などを取材して、「経済的徴兵制」の犠牲者となりかねない貧困にあえぐ若者たちのことを話されました。そして、戦後政治の最も嫌なものが凝縮されているのが『原発』だと感じ、現在も再稼働反対をデモなどで訴えているそうです。

私は、それぞれの方のお話の一貫したテーマとして「戦争」があり、現政権は多額の予算（税金）をつぎ込みながらも、国民の命を軽んじていると感じました。（教宣部・山本）

2016-17
年度 大阪支部
執行部体制

委員長	樋口万浩（大正埠頭）
副委員長	山田清二（神崎運輸）
〃	國分仁昭（朽木協鐵）
〃	小林勝彦（大阪機船）
書記長	林繁行（此花荷役）
書記次長	吉馴真一（サンユ一）
執行委員	陣内恒治（三星海運）
〃	赤保勝（月星海運）
〃	松本康（みなと労供）
〃	田村吉雄（大阪港埠頭）
〃	川村和美（城東組）
〃	吉本賢一（大正埠頭）
〃	和泉清（阪南港運）
〃	池尾隆雄（ガスケミカル）
〃	横山貴安基（スミサク）
〃	田中法広（オーエスティ）
会計監査	丸山賢司（太陽陸運）
〃	小林信介（ナニフ生コン）
顧問	山元一英

だんけつ

第304号 2016年10月26日



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 林 繁 行



第40回定期大会

組織の拡大は最重要課題

支部執行委員長 樋口万浩

10月8日、大阪港湾労働者福祉センターにて開催された大阪支部第40回定期大会にて、新執行委員長に選出されました。この場をお借りしてごあいさつ申し上げます。

安倍内閣は一昨年、「集団的自衛権」で“解釈改憲”後、昨年9月には戦争法の強行採決を行い、本年7月10日に行われた参議院選挙では、改憲発議の可能な、衆参3分の2以上の議席を確保しました。こうして、日米安保条約による米軍の一員としての自衛隊の参戦や沖縄・辺野古新基地建設、高江のヘリパッド建設、TPP推進と、アメリカ追従を加速させました。労働分野では、“世界で最も企業が活動しやすい国”と称して、労働法制の改悪、残業代ゼロ法案、解雇の金銭解決制度、消費税増税など、労働者に逆風となる政策を進めています。

2011年3月11日の東日本大震災による福島第一原発事故はいまだ収束のめども立たない中、放射能汚染除去、廃炉などの費用を血税で負担することを目論見、あろうことが原発再稼働をも進めています。

安倍内閣の暴走をとめる闘いが、私たち労働者の労働条件、生活維持向上と深く関わっていることをしっかりと認識し、当面は、12月中のTPP批准阻止の闘いと、来年1月に予想されている衆議院選挙に

何としても、反安倍・反改憲勢力を一人でも多く国会に送る闘いを勝ち抜かなければなりません。

さて、私が1985年に全港湾大阪支部に加入以後、31年が経過しました。当時、支部組合員は約1400人だと記憶しています。しかし、現在の支部の組織人員は大きく減少しています。港湾荷役作業の機械化による効率化、コンテナなどによる輸送形態の変化、道路網の整備による港湾関係の各会社の人員の削減、会社の閉鎖、倒産による分会の消滅など、種々の要因があると推測されます。

こうした情勢の中で、従前から訴えてきましたが、大阪支部の組織拡大は最重要課題です。そして、このためには、まず組織の強化が大切だと考えます。たとえば、最近の分会代表委員会では、分会員からの発言は少ない状態です。新執行部では、こうしたことについても、さまざまな角度から時間をかけて議論し、組織強化につなげたいと考えています。

組織を強化し、組合員一人ひとりの自覚を高めることで、拡大に繋がる可能性がおおいにあると思います。

組織強化を支部全体で取り組むために議論を深める、このために先頭に立つ決意です。

組合員の皆さん、共に進みましょう！



大阪支部が5支部（沿岸南・沿岸東・車両・木材・石炭）統合後40年を迎えた10月7日、弁天町・ホテル大阪ベイタワーで『全港湾大阪支部40周年記念式典』が、各分会代表者、来賓として中央本部や各地方本部・支部の役員、共闘関係組合、各級議員など347名の参加者を得て、賑やかに開催されました。

山元一英支部執行委員長は、「支部40年の歴史を継承し、さらなる飛躍を勝ち取ろう」とあいさつされました。

ご来賓の方々からは、全港湾大阪支部の地域運動に対する貢献や今後の運動への期待、山元委員長に対するねぎらいの言葉などが述べられました。

第2部では、「まーちゃんバンド」や「川口真由美とおもちゅらさんご」が演奏と歌で、インターナショナルを合唱するなど、会場をおおいに盛り上げました。

最後に山田副委員長のユーモアあふれる閉会あいさつで締めくくられ、互いに今後の10年に向けての健闘を誓いつつ、散会しました。



山田副委員長閉会あいさつ



団結ガンバロー



樋口副委員長閉会あいさつ



山元委員長あいさつ



松本中央執行委員長あいさつ



「インターナショナル」を大合唱